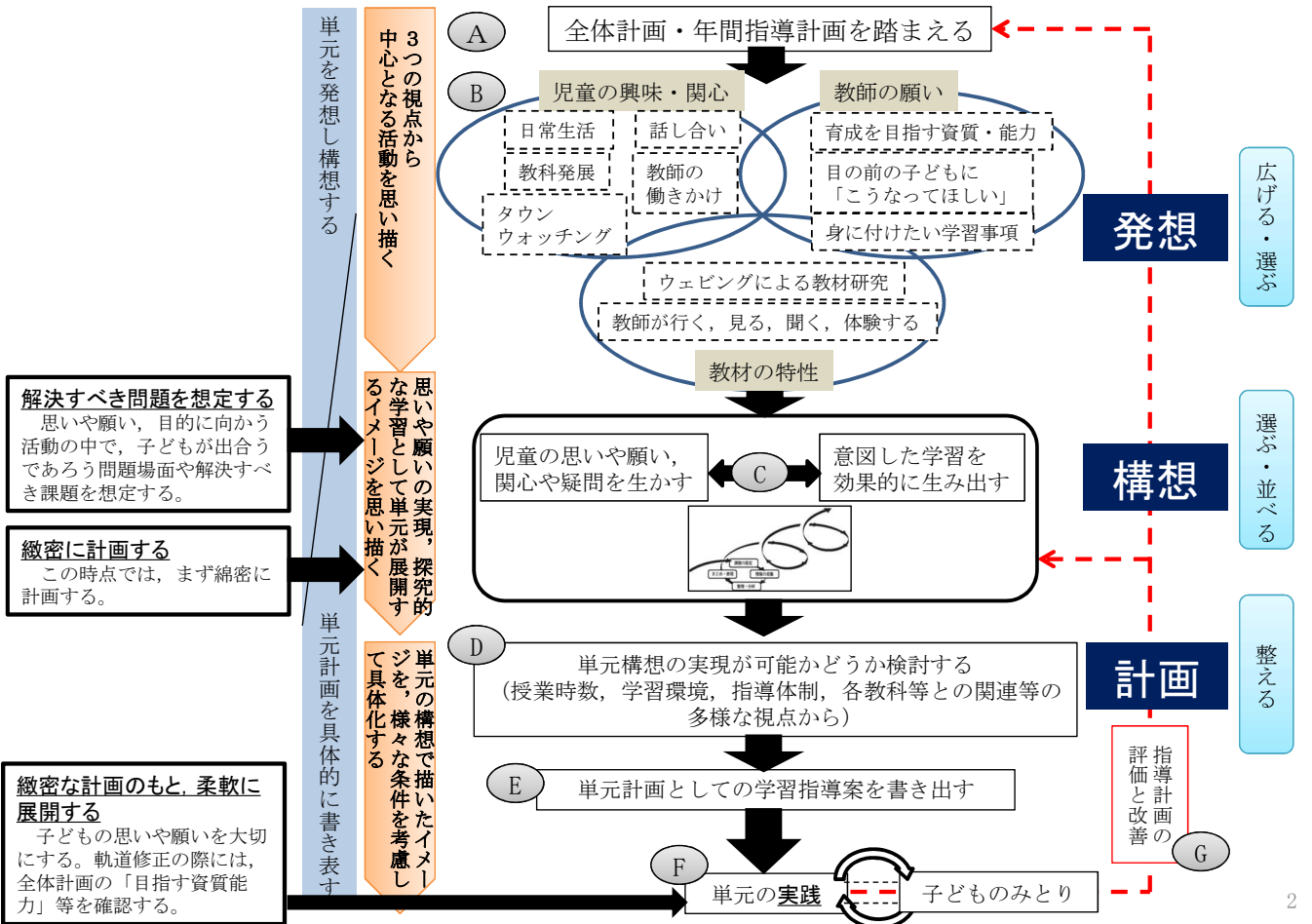


○ 単元計画をデザインする手順

参考: 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(平成22年11月 文部科学省)

単元計画をデザインする手順



単元計画をデザインする手順

今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 (平成22年11月 文部科学省)

A 全体計画・年間指導計画を踏まえる

単元計画を作成するにあたっては、その前提として、学校の全体計画・年間指導計画を踏まえる必要がある。

B 3つの視点から、中心となる活動を思い描く

どの視点から構想を始めても、他の2つの視点についても十分に思いを巡らせることが大切である。

① 児童の興味・関心

児童の実態や興味・関心を出発点とすることで、児童の主体的な活動が保障できる。

② 教師の願い

教師の願いを出発点とすることで、どんな内容について学ばせたいのか、どんな資質や能力及び態度を身に付けさせたいのかを明確にした単元構想が可能となる。

③ 教材の特性

教材(学習材)とは、児童の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。

教材の特性を出発点とすることで、どのような問題解決や探究活動を行うことができるか、明確に見通すことができる。その際、横断的・総合的な学習になるように意識することが求められる。

C 探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

① 児童による主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには、**児童の関心や疑問を重視し、適切に取り扱うこと。**

② 問題の解決や探究活動の展開において、**教師が意図した学習を効果的に生み出していくこと。**

児童が主体的に進める活動の展開においては、**教師が意図した内容を児童が自ら学んでいくように単元を構成する点に難しさがある。**そこでまず、その関心や疑問から、児童はどのような活動を求め、展開していこうかと考える。そして、活動の展開において出会う様々な問題場面と、その解決を目指して児童が行う問題の解決や探究活動の様相、さらにそれぞれの学習活動を通して児童が学ぶであろう事項について、考えられる可能性をできるだけ**多面的、網羅的に予測する。**その際には、各学校で定めた探究課題、育成を目指す資質能力との照らし合わせを行う。

D 単元構想の実現が可能かどうか検討する

まず、単元を構成する諸活動を考えた後に、各活動が児童の意識や活動の自然な流れに沿って展開できるかを検討する。流れに不自然さや無理がある場合には、順番を入れ替えたり、活動の間に別の活動を挟んだり省略したりすることで、単元構想の実現可能性をより高めることができる。さらに、各活動の授業時数、学習環境、学習形態、指導体制、各教科等との関連等の多様な視点から、単元構想が実際に実現可能かどうかを吟味する。

E 単元計画としての学習指導案を書き表す (冊子版解説P.104 HP版P.99)

単元の計画を具体的に表現するには、例えば、次に示す項目を学習指導案に位置付けることが考えられる。

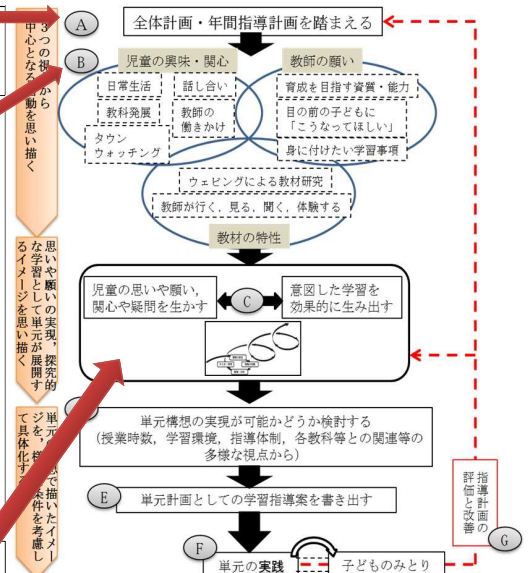
①単元名 ②単元目標 ③児童の実態 ④教材について ⑤単元の展開 など
単元の学習を通して、どのような概念的な知識を児童に獲得してほしいのか、どのような思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の伸長を期待しているのかを明確にし、児童の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習となるよう単元を構想しなければならない。

F 単元の実践

どれだけ丁寧に単元づくりを行っても、**児童の活動は教師の想定通りにはならない場合もある。**その際には、計画通りに実行するのではなく、**児童の動きに応じて柔軟に修正しつつ学びを生みだそうとする、教師の構えが重要になってくる。**

G 指導計画の評価と改善

単元の実践を振り返り、単元計画を見直すとともに、次年度の全体計画や年間指導計画の改善に役立てることが必要である。



単元計画をデザインする手順

今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 (平成22年11月 文部科学省)

D 単元構想の実現が可能かどうか検討する

まず、単元を構成する諸活動を考えた後に、各活動が児童の意識や活動の自然な流れに沿って展開できるかを検討する。流れに不自然さや無理がある場合には、順番を入れ替えたり、活動の間に別の活動を挟んだり省略したりすることで、単元構想の実現可能性をより高めることができる。さらに、各活動の授業時数、学習環境、学習形態、指導体制、各教科等との関連等の多様な視点から、単元構想が実際に実現可能かどうかを吟味する。

E 単元計画としての学習指導案を書き表す (冊子版解説P.104 HP版P.99)

単元の計画を具体的に表現するには、例えば、次に示す項目を学習指導案に位置付けることが考えられる。

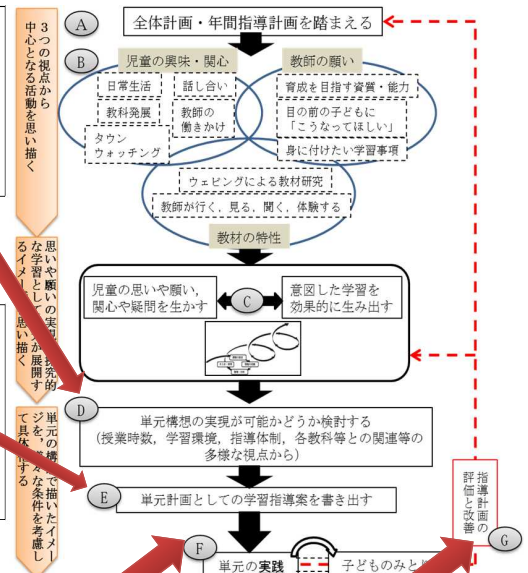
①単元名 ②単元目標 ③児童の実態 ④教材について ⑤単元の展開 など
単元の学習を通して、どのような概念的な知識を児童に獲得してほしいのか、どのような思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の伸長を期待しているのかを明確にし、児童の興味・関心から始まる学習活動の連続が、探究的な学習となるよう単元を構想しなければならない。

F 単元の実践

どれだけ丁寧に単元づくりを行っても、**児童の活動は教師の想定通りにはならない場合もある。**その際には、計画通りに実行するのではなく、**児童の動きに応じて柔軟に修正しつつ学びを生みだそうとする、教師の構えが重要になってくる。**

G 指導計画の評価と改善

単元の実践を振り返り、単元計画を見直すとともに、次年度の全体計画や年間指導計画の改善に役立てることが必要である。



①課題の設定の事例

- 事例① 体験活動を対比して課題を設定する
- 事例② 資料を比較して課題を設定する
- 事例③ グラフの推移を予測して課題を設定する
- 事例④ 対象へのあこがれから課題を設定する
- 事例⑤ KJ 法的な手法で課題を設定する
- 事例⑥ 問題を序列化して課題を設定する
- 事例⑦ ウェビングでイメージを広げて課題を設定する

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(平成22年11月 文部科学省 P24)

5

②情報の収集の事例

- 事例① アンケート調査で情報を収集する
- 事例② フリップボードで情報を収集する
- 事例③ インタビュー前にチェックリストで確認して情報を収集する
- 事例④ 図書室や図書館で情報を収集する
- 事例⑤ インターネットで情報を収集する
- 事例⑥ ファクシミリで情報を収集する
- 事例⑦ 手紙で情報を収集する
- 事例⑧ 電話で情報を収集する
- 事例⑨ 電子メールで情報を収集する
- 事例⑩ 実験・観察を通して必要な情報を収集する
- 事例⑪ ファイルに情報を集積する
- 事例⑫ 集めた情報をコンピュータフォルダに蓄積する

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(平成22年11月 文部科学省 P24)

6

③整理・分析の事例

- 事例① カードで整理・分析する
- 事例② グラフで整理・分析する
- 事例③ マップで整理・分析する
- 事例④ 図等で整理・分析する
- 事例⑤ 座標軸の入ったワークシートで整理・分析する
- 事例⑥ メリット・デメリットの視点で整理・分析する
- 事例⑦ ベン図で整理・分析する
- 事例⑧ 「ビフォー・アフター」の視点で整理・分析する
- 事例⑨ ホワイトボードで整理・分析する
- 事例⑩ 集めた情報をランキング付けして整理・分析する

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(平成22年11月 文部科学省 P24)

7

④まとめ・表現の事例

- 事例① 振り返りカードでまとめ・表現する
- 事例② 保護者や地域住民などに報告する
- 事例③ 自己評価カードを活用してまとめ・表現する
- 事例④ プレゼンテーションでまとめ・表現する
- 事例⑤ 新聞でまとめ・表現する
- 事例⑥ レポートでまとめ・表現する
- 事例⑦ パンフレットでまとめ・表現する
- 事例⑧ ポスターでまとめ・表現する
- 事例⑨ パネルディスカッションでまとめ・表現する
- 事例⑩ シンポジウムでまとめ・表現する

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(平成22年11月 文部科学省 P24)

8

○ 知識及び技能・概念的知識の例

9

知識及び技能・概念的知識の例①【小学校3年生】

探究課題	知識及び技能（概念的知識）
<p>地域の豆腐屋Aさんの、豆腐づくりにかける思いや願いと、豆腐や大豆の現状 (食)</p> <p>子どもが探究的に関わる人・もの・ことを具体的に示すことが肝要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんが、季節や収穫状況などによって適切な大豆を選んで豆腐づくりに取り組んでいること ・ 豆腐づくりには様々な工程があり、Aさんが大豆や水、作る量などにこだわりをもって作っていること。 ・ 豆腐を生産する人、販売する人、消費する人といった様々な立場の人が存在すること。 (多様性) ・ 商品は、多様な立場の人々の需要や供給のバランスによって成り立っていること（相互性） ・ 我が国の農業は様々な課題を抱えており、それ課題が自分たちの生活と関わっていること <p style="text-align: right;">等</p>

探究課題と同様に構成する「具体的な資質・能力」を明確にすることが大切。特に「知識及び技能」は、設定した探究課題の特質によって異なる。

10

知識及び技能・概念的知識の例②【小学校4年生】

探究課題	知識及び技能（概念的知識）
<p>身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々 (福祉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中には高齢者や身体に障がいがある人など、様々な人々が暮らしていること（多様性） ・すべての人々が安心して快適に道具や建物を使用したり、まちで生活したりできること（公平性） ・様々な人々の立場に立って身の回りのものを見つめ直し、生活を工夫すること（連携性） ・身の回りの高齢者の暮らしを支援する人々や組織があり、具体的な取組を進めていること（創造性）

子どもが探究的に関わる人・もの・ことを具体的に示すことが肝要

探究課題と同様に構成する「具体的な資質・能力」を明確にすることが大切。特に「知識及び技能」は、設定した探究課題の特質によって異なる。

11

知識及び技能・概念的知識の例③【小学校5年生】

探究課題	知識及び技能（概念的知識）
<p>地域に身近な自然と、そこに起きている環境問題や、その解決に向けて取り組む人々や組織 (環境)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に生息・生育する生物は、色、形、大きさなどに違いがあり、生育の環境が異なること（多様性） ・身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていること（相互性） ・自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないこと（有限性） ・生活様式の変化や消費行動等が自然環境に影響を及ぼしていること。 ・身近な地域の自然や環境を保全するためのアイデアや具体的な取組があること（創造性） ・地域の自然を再生に取り組む人々や組織が存在し、それぞれがお互いに関わり合いながら取組を推進していること。 等

子どもが探究的に関わる人・もの・ことを具体的に示すことが肝要

探究課題と同様に構成する「具体的な資質・能力」を明確にすることが大切。特に「知識及び技能」は、設定した探究課題の特質によって異なる。

12

知識及び技能・概念的知識の例④【小学校6年生】

探究課題	知識及び技能（概念的知識）
商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 （地域経済）	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの人口の減少や少子高齢化が影響を及ぼしていること。（一般共通性，地方特殊性） ・身近な地域の商店街を再生するためのアイデアや具体的な取組があること（創造性） ・商店街の再生を推進する人々や機関が存在し，それぞれが関わり合いながら役割を果たしていること。また，これまでも商店街やまちの活性化のために尽力してきたこと（連携・努力） ・価値観やライフスタイルの変化に伴う消費者のニーズの多様化（背景，原因，影響，関係性）等

子どもが探究的に関わる人・もの・ことを具体的に示すことが肝要

探究課題と同様に構成する「具体的な資質・能力」を明確にすることが大切。特に「知識及び技能」は，設定した探究課題の特質によって異なる。

知識及び技能・概念的知識の例⑤

探究課題	知識及び技能（概念的知識）
【ひじき】 ひじきの生産に関わる人々の願いや思いと，それを実現しようとする意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ひじきの生産に関わるAさんが，健康食品としてのひじきのよさを発信したり，様々なレシピを紹介したりしていること。 ・ひじきを生産する人，販売する人，消費する人といった様々な立場の人が存在すること。（多様性） ・商品は，多様な立場の人々の需要や供給のバランスによって成り立っていること（相互性） ・我が国の水産業は様々な課題を抱えており，その課題が自分たちの生活と関わっていること など

※各学校が実践を重ねて，概念的知識とはどのようなものかを明らかにすることが大切！